

平成19年度第2回子育て・環境・魅力づくり部会摘録

開催日時 平成19年5月15日(火) 午後6時30～8時30分

会場 幸区役所プレハブ会議室

参加委員

専門部会B委員：今井淑子部会長、松世三重子副部会長、酒井道子、庄司佳子、
菅野勝之、成田信子、根本健、深瀬和則、小島春男

事務局(総務企画課)：高橋主幹、北村主査、小出職員、吉田職員、

傍聴者：1名

次第

1. 報告事項

○第1回専門部会(4月17日開催)の報告

2. 議題

(1) 「安心して子育てできる環境づくり」について

(2) その他

1. 報告事項

第1回専門部会(4月17日開催)の報告

2. 議題

(1) 「安心して子育てできる環境づくり」について

資料説明

- ・ 資料1に基づき、子育て広場の利用状況について説明。
- ・ 資料2に基づき、平成18年度幸区乳幼児定期健康診査の実施状況を説明。
- ・ 資料3に基づき、待機児童数等について説明。
- ・ 資料4に基づき、母親クラブ数の推移について説明。
- ・ 資料5に基づき、保育園・幼稚園・その他の保育の利用状況等を説明。

討議

(庄司委員)

幸市民館で開催された子育て広場では、0歳児が多かった。そこに参加されたお母さん方からは、授乳室などで出会ったお母さん方と交流できて良かったという意見が多かった。悩んでいることが多いようだ。そのため、子育てヘルパーみたいなものが必要だと感じた。

(今井部会長)

次回の区民会議で子育て支援について議論してもらうために、本日は区民会議で報告するためにどのようにまとめていったら良いか検討したい。これまでに「働くお母さんの支援の問題点」「家にお母さんのための支援の問題点」ということで2つに分けて考えたらどうかということと、「未就学児童の遊び場」「交流の場」「情報発信」についていろいろな意見が出されているが、どのように整理していくか話し合っていきたい。

(根本委員)

配付したい資料がある。(根本委員資料配付)

(庄司委員)

公的な場があるとふれあいができる。このようなふれあいの場を増やしていきたい。

母親クラブが減り、子育てグループも減っている状況である。自分たちの手で子育てをしたいという人がいて、そのような人たちを支援していきたい。

(今井部会長)

前回出た家にお母さんの支援で出た意見では、交流の場、子育て支援センターみたいなものを増やした方が良いということについては明らかになっている。

南加瀬子育て広場が年間11回が12回になったが、施設を増やすとともに回数を増やしていく必要はあると思うが。その他にも何かあるか。

(成田委員)

3歳からは経済的な支援が必要であるが、3歳までは、子育てするための環境づくりをサポートする必要がある。

悩んでいるお母さんたちの精神的な支えが必要になる。さっき言われたように自主サークルをつくったりするのができてもいいし、中心になるお母さんたちへのサポート体制が必要ではないか。

サークル自体を支えていくノウハウとか、専門的な知識をどのように提供していったら良いのかとか、行政からのアドバイスなどがあれば、つながりが深くなってくると思う。

母親クラブが小さくなっていることもあるので、地域を越えたものであるが、お母さん達を支援できるような仕組みをつくった方が良い。

しかし、お母さんのニーズとずれたものではないけない。

(松世副部長)

今、悩んでいるお母さんが多いという意見が出されているが、まさに0歳～3歳時というのは、子育てに不安な時期であると思う。以前テレビで見たものだが、ある国で子どもが生まれたら、近所の人をサポートする仕組みがある。日本にはそのような仕組みがないと思うが、これからシニアが子どもより増えていく時代なので、シニアが働く場として、シニアが子育てを支援できる仕組みづくりを提案できたら良いと思う。シニアの人はいろいろ経験を持っていると思うので、そういう人材を育てられる仕組みづくりが必要だと思う。

もう一つは、子育て広場みたいな施設を増やしていけることを提案したら良いと思う。

(今井委員長)

なんかあったらうちに来てくださいねって言えるところがあると違うと思う。

(小島委員)

今は、なかなかそんな奇特な人はいないと思う。

(成田委員)

全部を支援するのではなく、その人ができることだけ支援できれば良い。たとえば、子どもが幼稚園に入ったお母さんだったら、子どもが生まれたばかりのお母さんにアドバイスするとか。

逆に中学生とか多感な時期なんだけど、手の尽くしようがないときのアドバイスする場所であってもいい。

これまでみんな地域で子育てやってきたと思うが、私も毎日のように携帯メールに犯罪の情報がくるので、子どもを外に出さない方が安全じゃないかなと思うこともあり、なかなか外に出ない。しかし、地域の中で支えていくような仕組みが大切だということは、そういう子育て中のお母さんにがきっかけになっていくと思うので、子育て中のお母さんを支援することをきっかけに地域のまちづくりが広がっていくとよい。

(今井部長)

あんまり交流しなさいよと言うと負担が大きいので、何かあったらここに相談してくださいというのがあれば、お母さんの心強いと思う。歩いていける距離にそういうのがあれば良い。

(小島委員)

自分の子どもを育てるのはお母さん。本来は子育てでしっかりしなくてはいけないのはお母さんだと思う。人の支援なんかなくても。本来は。

(今井部会長)

昔は、お婆ちゃんなどと一緒に住んでいたが、今は核家族で孤立している。昔はお婆ちゃんがいろいろ教えてくれた。今は子どもが少し具合悪くなっただけで不安になってしまう。

(小島委員)

今はあらゆる団体が子育て支援という形でやっているが、あんまり参加しない。そこが問題だと思う。

(今井部会長)

出てくるお母さんはあまり心配ない。出てこないお母さんが心配。出てこないお母さんが参加できる場所をつくってあげたい。

(成田委員)

場を設けてあげて子どもと一緒に成長できる場とか、育児初期だけのお母さん同士がお話できる場があるとか必要。ちょっと大きくなっても、声をかけてあげるようなものをつくってあげた方がよい。

(今井部会長)

場に出ていけるお母さんや育児サークルをつくれるお母さんは心配ないと思う。育児ノイローゼになったりとか子どもを虐待してしまうことが増えているわけで、このようなお母さんは外に出てこない。このようなお母さんを支援できる(声をかけられる)しくみをつくる必要がある。そのためには、地域で声をかけられる誰かいると違う。

先ほど3ヶ月検診の来訪率が98.6%となっているという報告があったが、かなり高い率だと思う。そういうときにあなたの地域にこういう人がいますよ、何かあったら声をかけてみたらどうですかということをお知らせするのはどうか。

あと、声をかけるだけでも違う。地域で出会ったらお元気ですか?といったような声をかける雰囲気になるとよい。

そういう登録なら負担にならないのでは。

(根本委員)

登録とか、施設とかあった方がよいと思うが、資料の方に乳幼児健康診断があり、連絡を取られてくるわけだから、こういうところに来る人も子育ての悩みを抱えている人がいるわけだから、検診を待っている時間帯にでも、お母さんたちの悩みを聞いたらどうか。悩みを聞くのも健康福祉センターとボランティアと一緒にできればできると思う。できることから始めるべきである。

先ほどからでているが、その他の子育てをどうするのか。幼稚園、保育園へいくまでのこそだけはどうするのかということも考えなくてはいけない。経済的な問題で幼稚園、保育園へいられない子どもたちもいると思う。そういう家庭をどうするか。

具体的に何をしなくてはいけないかを考えていかないと何も動かないと思う。

南加瀬のこども文化センターなんていろいろやっている。本当は人間の人格を形成するためには、0歳～3歳までが勝負である。0～3歳まで基本をつけておけば、100歳まで安心である。0歳～3歳までに基本的なことを身につけていないから、最近の人たちは自分のやりたいことだけやる。他の人のためのことをやろうとしない。自分以外の人を助けようという気がない。ボランティアをしている人は別であるが、普通の人はそんなことをしない。だから、0歳～3歳までをどう育てるかが問題である。そういう意味で先ほど資料を渡したが、世界中で個人の自由が強調され、幼児から小中高、大人まで混迷し、心の病が蔓延している。今の子どもたちは良いこと悪いことがわからない、大人が教えていない。今の子どもたちは何をやっても自由だと思っている。良いこと悪いことは別問題だと思っている。若いお父さん、お母さんが教えていない。見て見ぬ振りをする。それは心が臆病だから。それを放っておいたら社会の崩壊になってしまう。だから0歳～3歳で基本的なことを身につけさせるのが大事である。では、どんなことをやっていくかということ、絵本、読み聞かせが大事。絵本で情操教育をつくって取り組んでいくことが大事だと思う。どんどんやるべきだと思う提案していきたい。

(今井部会長)

交流の場とか子育て支援センターを増やそうという中に、読み聞かせが必要であるというように考えて良いか。

(根本委員)

そうである。

(今井部会長)

0～3歳に限らず、3～5歳でもすべて地域の中で支援ができないかという意見がでていますが、そういうのを3ヶ月検診でお知らせしたらどうかとなっているが、しくみづくりをもっと具体的に考える検討委員会みたいなものをつくったらどうかと提案したいのだがどうか。

(酒井委員)

3ヶ月健診の時には健診ボランティアというのがある。そのボランティアに手伝ってもらうことも考えられる。

主任児童委員というのが各地域にいる。主任児童委員のリーフレットをつくり、検診のときとか保健福祉センターの催し物のときとかに配っている。しかし、地域でうまく活用されていない。

主任児童委員に相談してみようかというのはあまりない。また、行政の方も上手に活用していない。そういった支援する組織も実はいろいろあるが、あまり活用されていないのが実情である。そういった課題をどうするか。

(小島委員)

主任児童委員は、民生委員とは違うのか。

(酒井委員)

民生委員の中のひとつ。主任児童委員という言葉さえ、あまり知られていない。

(今井部会長)

主任児童委員というものの自体もあまり知られていない。主任児童委員にどうすれば相談できるのか知るすべがないとか、区役所とかに行けば良いのだが、そういうところに出向いていけない人をどうするのか、そういう人を支援できる仕組みを考えていく必要がある。

主任児童委員になるには、研修があつたり会合があつたりして難しい、地域でそういう人がいれば気軽に相談しやすい。

(庄司委員)

主任児童委員は、そもそも地域で相談できる人たち。主任児童委員自体を子育てしているお母さんが知っているかが問題。また、行政もうまくPRできていない。

(酒井委員)

主任児童委員だけでなく、民生委員もそれを兼ねているので、子育ての問題や育児の問題を相談すれば良い。

(成田委員)

3歳までは健診として90%以上参加している。必要だから、子どものためだからということでそこまでの人数が来ると思う。その後も来られるような、子育てにとって必要な機会があれば良い。

主任児童委員のことは知らなかった。主任児童委員みたいな人がいるのにもう少し活躍の場があっても良いのではないか。

(酒井委員)

子育ての支援とか専門的にできる仕組みがあれば。

(今井委員)

地域の困っている人を救える仕組みづくりというのに取り組んで良いのではないか。区民会議では、細かいことを検討できないので検討委員会みたいなものを立ち上げることを提案したらどうか。私たちのメンバーだけでなく他の人も参加してもらって検討したらどうか。

(酒井委員)

地域の困っている人を救える仕組みづくりは、働くお母さんと家にいるお母さんの両方に関わってくると思う。

(庄司委員)

すでに連絡会のようなものもあるらしいが、これからは区民会議と一緒にあって検討して、目に見える形で実現していくべきである。

(今井部会長)

今ある組織をつなげていくのは、行政の方で行ってほしい。

(小島委員)

専門部会では何か実現していかないといけない。

(菅野委員)

区民会議は具体的なことをやっていくところではない。具体的なことはまちづくり推進委員会などでやる。区民会議は提言をして、それを行政なり市民組織の力を借りながら具体化していくものではないか。

(今井部会長)

地域の困っているお母さんを救える仕組みを検討する検討委員会みたいなものから始めたらどうかということを提案したらどうか。

(菅野委員)

地域教育会議があるが、それは学校に関わっていく人だけが参加する組織ではない。PTAだけではお父さんやお母さんだけなので、中学校区の地域の人に関われるものとして地域教育会議がある。本来は、地域教育会議で検討してほしいこと。全国で地域教育会議があるのは川崎市だけだが、問題は地域教育会議でそのような問題が話し合われていないということ。

(小島委員)

地域教育会議は小学生、中学生だけ。乳幼児のことは話されていない。

(菅野委員)

規約見ると、それも語って良いことになっている。

(今井部会長)

では、区民会議で報告する内容を整理したいが、お話を聞いていると、遊び場、交流センター、子育て支援センターの数を増やしていくことが重要。また、その回数を増やしていくことが重要。その中の具体的な活動として読み聞かせなどをやっていったらどうか。

もう一つは、地域のシニアなどに協力してもらい、このような場に来られない人のために、地域での支援できる仕組みというのができないかということだと思う。

具体的な仕組みを検討するあたっては、検討委員会のようなものをつくって具体化したらどうかということでしょうか。

(小島委員)

そのようなまとめで良いのではないか。

(今井部会長)

それを区民会議でどなたが発表していただくことになるかを決めたい。

成田委員、酒井委員が発表することが決まった。

(今井部会長)

他に何か付け加えることがあるか。

(松世副部会長)

A部会の方では、民生委員もいるので、地域での子育てについて力強い話が聞けるかもしれない。

(今井部会長)

発表については、発表者と事務局で作成することでよいか。

(庄司委員)

発表にあたって、お母さんという視点だけでなくお父さんという視点も入れた方が良い。

(事務局)

発表は、そのまま口頭か、資料を揃えて行うのか。これまでいろいろデータを集めているので、それを使うとわかりやすい。しかし、発表者が資料をつくるとなると大変なので事務局でどう対応するか、ご指示をいただきたい。

(成田委員)

発表にあたって打ち合わせをさせていただいて良いか。

(庄司委員)

子育てフェスタでみなさんから出されたニーズ(アンケート結果)を当日資料として出してほしい。それと資料 5-3 補足資料も出すと良い。こういう資料をスライドで出してもらえるとわかりやすい。

(今井部会長)

今だされたデータなどを含めて発表者と事務局で打ち合わせしてほしい。

(事務局)

発表資料は、事前にお見せした方が良いか。

(菅野委員)

大変だと思うが、できれば事前に見せていただきたい。

(2) その他

次回の専門部会B部会は、7月3日(火)18時30分~。